

## 好ましくない例

```
<section>
  <h1>この書籍に関するレビュー</h1>
  <article>
    <h2>今年一番の良書です！</h2>
    <p>レビュー内容</p>
  </article>
</section>
```

## 好ましい例

```
<section>
  <h1>この書籍に関するレビュー</h1>
  <article>
    <h1>今年一番の良書です！</h1>
    <p>レビュー内容</p>
  </article>
</section>
```

「ひとつ上の見出しがh1なので、その中はh2にする」という必要はない

## header要素とfooter要素

header要素は、文書の冒頭部にあたる箇所に用いられる要素です。見出しや副見出し、カテゴリ情報や日付などが含まれると考えられます。ほとんどのサイトにおいて、body要素の冒頭で利用されます。サイトロゴやタイトル、グローバルナビゲーションが配置される、いわゆる「ヘッダ」部がそれにあたります。

また、先に解説したsection要素やarticle要素においても、見出し要素を含めて「ヘッダ」としてまとめるべきであれば、このheader要素を用いるとよいでしょう。前述（欄外注）の例では、グローバルナビゲーションを含んだページのヘッダ部と、article要素の見出しと発売日を含んでいます。

なお、header要素はセクションの要素において必須の要素ではないので、あえて見出し要素ひとつだけをわざわざマークアップする必要はありません。

footer要素は、文末部にあたる箇所に用いられる要素です。著作権情報、関連リンク、そのほかheader要素のようにカテゴリ情報や日付情報などが含まれると考えられます。多くのサイトにお

## ▶注

左の例では以前のものと比較のため、div要素をsection、article要素に置き換えています。div要素を使っていけないわけではありません。CSSによる装飾や、JavaScriptによる要素の操作をするためになんらかの要素が必要となった場合、その要素が文書構造上の意味を持たなければ、div要素またはspan要素を使うようにしましょう。

## ▶注

HTML5では見出し要素があれば、セクション関連の要素を利用しなくともアウトラインが形成されます。しかし、それでは暗黙的であるため、セクションを意味する要素で明示させるほうが好ましいです。

## ▶注

p.103のHTML5の例。